

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100657		
法人名	有限会社 ホットライフ		
事業所名	グループホーム ホットライフ		
所在地	佐賀市鍋島町大字森田82-10		
自己評価作成日	平成28年9月30日	評価結果市町村受理日	平成29年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成28年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1. 私たちは、明るく笑顔でケアを行ないます。</p> <p>2. 私たちは、思いやりを持ってケアを行ないます。</p> <p>3. 私たちは、利用者中心のケアを行ないます。を介護理念として、一人ひとりの意思を尊重し、状態や状況に応じたサービス提供を行っている。またホームの新聞を作成し、毎月家族に日常生活の様子を伝えたり、来訪時に希望を聞くなど、積極的に信頼関係作りに取り組んでいます。健康管理は体操を体調や体力に合わせて行い、体調不良の早期発見に一日2回のバイタル計測を行い、協力医療機関との連携を図っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は商業施設に囲まれた場所にあり、ホーム内は、清潔で居心地の良い空間である。スタッフは基本理念を理解し、一人ひとりの思いに寄り添った取り組みとして、希望に沿った支援を実践している。近くに同法人の病院があり、通院や緊急時の対応など、適切な医療連携を図っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をいつも見えるリビングに掲示し、毎月、カンファレンス時に唱和し確認している。	ホールや事務所内に理念を掲示しており、毎月のカンファレンス時に、唱和し意識付けを行っている。また、個人目標を設定しており、定期的に見直すことで、理念に基づいたケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の商店の新鮮な食材の配達サービスを利用している。敬老会・クリスマス会は地域の施設を利用し交流を深めている。	食材の配達で地元の商店の方の定期的な交流をしたり、敬老会とクリスマス会を旅館で行ったり、交流の機会を設けている。ホーム周辺は商業施設が多く、地域の方とのつきあいは難しい状況にある。ボランティアなどの受け入れはこれからである。	小学校との交流や、ボランティア訪問などを、民生委員の協力を受け、一緒に呼びかけるなど、交流する機会づくりに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	訪問業者や施設見学に訪れた時など、認知症について説明したり、入居者への声掛け時の反応などが理解を深める機会になっていると思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、ご家族・民生委員・地域包括センター等のさんかで利用者の日常生活の報告を行い、皆様からの意見を頂きサービス向上に努めている。議事録は掲示板に公表している。	年6回開催。民生委員・家族・地域包括支援センター職員の参加がある。避難訓練や敬老会などの行事に合わせて行うことで、参加しやすい工夫をしている。ホーム状況の報告や制度改正時の地域包括支援センターからの報告等が主で、意見交換や地域情報の交換は少ない状況にある。	参加者の意見が出しやすい情報提供の工夫や、地域情報などの情報交換を密に行えるような取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者、ケアマネジャーが市町村と連絡、相談する事で協力関係を築いている。	運営推進会議以外でも、研修会の紹介や、相談、報告など連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全員でヒヤリハットを記入し、事故防止に努めている。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしておらず、玄関の施錠もしていない。内部研修も年間計画を立て行っている。研修会などに参加した職員による伝達研修会を行い、職員の拘束に対する理解を深めるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のカンファレンス時に勉強会を実施したり、講習会に参加している。身体状況は入浴時や更衣介助時に確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症高齢者や精神障害者・知的障害者の研修にも参加している。また、カンファレンスにて発表・共有し必要な時に活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明を行っている。また、法改正時や料金改定の際も説明を行い理解・納得して頂き同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを実施したり、運営推進会議で家族様からの意見を検討し、文書にして運営に反映している。	玄関に意見箱が設置されており、アンケートも年1回行っている。また、ホーム便りを郵送し、ホームの様子を知ることができる工夫をしている。電話連絡等で家族との意見交換を行い、運営に反映できるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンス時、職員の意見・提案を聞く機会があり、職員用の連絡ノートにて周知し反映させている。	毎月のカンファレンスで情報交換を行い、職員一人ひとりに意見を求める機会を設け、出た意見は検討し、できる限り反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、目標を設定し職員が向上心を持ちスキルアップできるように努めている。定期的に職員面接を行い、勤務状況を把握し、職場環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	カンファレンスで毎月勉強会を実施している。また研修や講習に参加できるように調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者や地域の交流会に参加し情報交換などサービスの質の向上を目指している。職業訓練の同期生の集まりなどの交流を活発に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の不安解消のため、家族と一緒に見学して頂き要望などを聞き、関係づくりを実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学に来て頂いて不安な事、困りごとの情報の共有化をし、要望に応えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の状態や状況に合わせ、必要な事は直ぐ対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の出来る・出来ない事を把握してその方に沿った援助を行う事で笑顔で過ごして頂くように関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用報告、新聞を毎月送付している。面会時には日々の暮らしの様子を報告している。行事への参加も呼びかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親類の方が面会に来られるなどの交流がある。	友人や知人の面会は少ないが、来訪時には職員から声掛けをするなど、話しやすい環境作りに努めている。馴染みの場所への外出はあまりできていないが、今後、検討していく意向である。	入居者の馴染みの場所の把握と、実際に行ってみるなど、馴染みの関係が継続できるような取り組みに期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の自由な生活を尊重しながら孤立しない様に声掛け、レクレーション等で利用者同士の交流や関係を持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退居がほとんどであり、入院先に面会に行くなど継続した関係に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	申込時に家族から以前の生活状況を聞き取り、希望の把握に努めている。また、本人にも希望など聞きカンファレンスで検討している。	日常的な会話や関わりの中で、思いや意向の把握に努めている。入居者の思いを伝えられない方には、家族からの聞き取りや行動、仕草などで思いを理解するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や関係機関に情報提供を依頼している。本人からも聞き出している。また、職員全員が利用者のフェイスシートを読み、情報を共有してサービスにあたっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や職員連絡ノートを活用すると共に、朝夕の申し送りの徹底に努め、介助時の状態の変化、排便状況を観察把握に務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状況を家族に報告し意見を伺い、職員と相談して現状に合った介助を行うようにしたり、プランを作成している。	本人の状況や家族の要望を考慮した介護計画を作成している。また、介護計画に沿った記録をすることで、内容の把握と実践に努めている。担当者会議の記録等について、全入居者分をひとまとめに綴じている。しかし、個別の書類作成は不十分である。	担当者会議録などについて、個別の記録作成をするなど、記録の整備に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や申し送りノートに記入し職員間で情報を共有しながら実践し、介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険法のためのサービスではなく、他法・他施策も検討しサービスに当たっている。本人の要望に対しては家族と職員で協力して出来る限り取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の生活された地域との関わりを保ちながら、安心・安全な生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の他、利用者の状態に合わせた検査もあり、安心して過ごせるようにしている。熱発など初期の段階で相談出来る為、ご家族様も安心されている。	同法人の病院が近くにある為、通院や緊急通院は同院へ行っている。入居者・家族が希望するかかりつけ医の受診は、基本的に家族に依頼しているが、遠方の家族の要望に応じて、ホームによる支援を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	熱発時等、急迫な時だけでなく、日頃からNSとの連携をとり、報告・連絡・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃からDr.やNSと連携をとり対応している。病院関係者との情報交換は密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に意向を聞いている。終末期のあり方については、病院とも連携をとり、家族様に理解していただいている。	看取りは行っていないが、病院と連携し、状態の変化や低下については随時提供している。終末期が近くなったら、対応について医師や家族と話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは全員、救命救急の講習を消防署で受講し応急手当の訓練をしている。年2回、カンファレンス時に救急救命の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練のほか、ハザードマップも備え付け、季節の行事を開催する時も緊急時の対応を想定した訓練を実施している。	年2回(1回は消防署立ち会い)、避難訓練及び消火訓練を行っている。運営推進会議を一緒に行うなど地域の代表者や行政担当者が参加しやすい工夫をしている。備蓄品・防災器具も完備し、洪水ハザードマップを掲示し、意識を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の立場に立ち、利用者様の人格を重視した言葉掛けで対応している。	表情や仕草を観察し、トイレの時は、出来るだけさりげなく誘導し、入浴の時は、つい立を使い、プライバシーの保護に配慮している。記録は事務所で管理し、個人情報取り扱いにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ利用者様の希望を聞いて、生活の支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など利用者様のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望を入れ、その方らしい服装が出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の摂取量に応じて、無理なく食べられるよう配慮している。利用者様に後片付けを手伝って頂いている。	入居者の状況に合わせて、各ユニットで別々に献立を立てている。日は誕生者の希望を聞いて献立に反映している。食事の際は、静かな音楽を流し、食器拭きなどの後片付けを入居者も一緒にしている。また、季節感にも配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の体調を考えて、食事量・水分量が確保できるよう支援している。毎食後、食事量と水分量を確認・記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、利用者様の状態により支援している。義歯は毎晩、洗浄液に浸して消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の時間や状態を把握し、声掛け誘導を行っている。夜間も声掛け誘導している。	個人の排泄チェック表でパターンを把握し、定期的な誘導を行っている。夜間もトイレ誘導し、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い献立や毎日、乳製品・果物を提供している。また、運動の働き掛けをして便秘予防をしている。排便確認表にて、個人の状況を把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが利用者の希望やタイミングに合わせて入浴できるよう声掛けしている。	週2～3回入浴している。嫌がられる方には声かけやタイミングを工夫したり、時間や日にちを変更したり配慮をしている。脱衣所と浴室の温度調整や脱衣所横にトイレがあるなど、環境整備も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングのソファで休息したり、いつでもベッドで休めるように、換気や温度調節等行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬は説明書を添付してもらい、変更があればその都度個人記録、連絡ノートに記入している。体調の経過報告は提携病院に必ず行い、変化があった時は受診して指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野を活かして、食器拭き・裁縫・ゴミ箱作り・洗濯物たたみ等の手伝いをして頂き、職員は感謝を伝えている。役立っている喜びを感じて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	敬老会・クリスマス会の食事会にはご家族や民生委員の方をお誘いして一緒に出掛けしている。また、季節のいい時や天気の良い日には職員と一緒に戸外へ散歩やドライブに出掛けしている。	敬老会やクリスマス会を外部会場で行ったり、散歩やドライブを楽しんでいる。季節のいい時や天気の良い日には戸外でお茶を楽しむなど、外に出る機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知度が重度化されお金の管理が困難な利用者には家族と相談して買い物は代行している。少額のお金を財布に入れ安心してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望される方にはその都度対応している。また、手紙が届いた方には手渡している。本人の了承のもと、代読の支援もしている。その後は居室に飾り付けしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング窓やトイレ内はカーテンにて温度や採光を調整している。廊下やリビングには毎月季節を感じられる絵を貼っている。行事開催時には飾り付けや展示をし、季節感を演出している。	リビングは明るく、行事の写真や作品等の掲示があり、季節を感じることができる。温度計や加湿器も配置し、温度・湿度の調整を行い、居心地のよい空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席などで利用者同士や職員と会話されるなど自由に過ごされている。時々、テーブル席の席替えも行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方に応じたもの、使い慣れたものを各居室に設置し、皆様にここが自分の部屋だと落ち着いて使用して下さっている。家族写真や仏壇なども置かれている。	居室は、入居者の希望に応じて馴染みのものを持ち込むことができる。落ち着いた雰囲気、写真や使い慣れたものをおくなど、居心地よく過ごせる配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物は沢山置かず、見渡しの良い空間にし、転倒防止など、安全面に配慮している。物品の場所も移動せず、見慣れた場所に置くことで出来る事は自分でして頂くよう努めている。		